

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770200309		
法人名	特定非営利活動法人ひかり		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	石川県七尾市田鶴浜町88番地1		
自己評価作成日	令和6年3月13日	評価結果市町村受理日	令和6年5月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の個別ケアに力を注ぎゆつくりと自分のペースで過ごせる時間を提供出来ていると思います。コロナ禍等で予定していた研修も中止になりましたが事業所内での勉強会等で職員のケアの向上に繋がるように取り組んでいます。コロナ禍で外出等出来なかった分事業所内でイベントをしたり行事食等で楽しんで頂けるように努めました

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社寺井潔ソーシャルワーカー事務所
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号
訪問調査日	令和6年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

能登半島地震の影響で、2月まで断水していた、その間給水の支援を受けたり、職員が協力して水を運んで乗り切っている。食材は近くのスーパーに、職員が週3回買い出しに行っているが、道路の復旧が完全でなく、足下が悪いため、まだ利用者は一緒に買い物に連れていくことはできない。町会の活動としては、回覧板が回ってきたり、清掃活動には参加している。今年度も田鶴浜高校介護福祉士コースの実習生の受け入れを行った。いつもなら、近所の方がとれた野菜を持ってきてくれるが、地震のため避難しており、今はそんな交流ができてはいない。
献立は、利用者に食べたいものを聞いて、作っている。利用者にも下ごしらえなどのできることを手伝ってもらい、柔らかか目に作るようにしている。そして、その人の状態に合わせて、食材の大きさや食事の量にも配慮している。食事中は、テレビを消して食事に集中するようにしている。職員も一緒に、同じものを食べているので、味やメニューなどについて話しながら、また食事が進んでいない方へ声かけしながら食事をしている。毎月のように行事食があり、食事を楽しんでいる。また、ホットケーキをデコレーションしたり、おはぎ、ゼリー、クリスマスケーキ作りなどのおやつ作りも楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を各ユニットに掲示し常に意識し実践できるように朝礼時唱和している	理念はホーム内に掲示して、毎日朝礼時に唱和して、皆で確認し合っている。新しい職員が、入職した時には、オリエンテーションの時に、必ず理念について触れて話している。職員は利用者が「年老いて病んでも普段どおり」に暮らしていけるように、日々支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内自治会に加入。回覧板や清掃活動に参加。コロナ禍で殆ど無くなっていたが少しずつ地域交流が出来るようになってきた。顔を見ると町内の方が声掛けして下さる	能登半島地震の影響で、2月まで断水していた、その間給水の支援を受けたり、職員が協力して水を運んで乗り切っている。食材は近くのスーパーに、職員が週3回買い出しに行っているが、道路の復旧が完全でなく、足下が悪いため、まだ利用者は一緒に買い物に連れていくことはできない。町会の活動としては、回覧板が回ってきたり、清掃活動には参加している。今年度も田鶴浜高校介護福祉士コースの実習生の受け入れを行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	奇数月の第2土曜日に運営推進会議を実施。人数の多い時にはコミュニティセンターをお借りし3密にならないようにして地域住民の方々と交流しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第2土曜日にコミュニティセンターをお借りし、市、包括、ご家族様、町内会長等に参加していただき課題を提示し意見や助言を頂いている	今年度から対面で開催しているが、4月にA棟で、9月はB棟でコロナの発生があり、1月には地震がおき、2ヶ月ごとの対面による開催はできず、一部書面による開催となった。会議では利用者の現況、ヒヤリハット、入居・退去の状況、職員の異動等について報告し、質疑応答を受けている。市役所、地域包括、かかりつけ医、地域の代表、家族等がメンバーとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常のサービス提供について担当の方に相談し助言を頂いている。ホームでの事故やひやりはっと、入居状況を毎月報告している	今年度は、コロナの発生や、能登半島地震の発生により、例年より頻りに市と連絡を取り合っている。市には、毎月、入居者の数、待機者の数を報告している。この他、利用者の介護保険更新などの事務手続きについて連絡したり、介護事故が発生した時には速やかに報告している。生活保護を受けている人が数名いるので、市のケースワーカーとの連絡も、密に取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を年4回行っている。議事録を回覧し身体拘束だけではなく言葉でのスピーチロックも行わないよう取り組んでいる	指針を整備して、研修を行い、適正化のための委員会は3ヶ月ごとに開催されている。研修は、7月には、指針の理解と実施時の手順確認、12月には、高齢虐待の定義について行っている。できるだけ多くの職員が参加できるように、各研修は2回ずつ開催して、研修参加者には、レポートを提出してもらっている。建物の施錠は夜間帯に防犯上の観点で実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会にて事例検討を交えて不適切な言葉遣いの有無、乱暴な行為の有無、失礼にあたらないような支援が無いが心掛けている。虐待を起こさない、見過ごさない職場作りに努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人職員には研修会、勉強会に参加する機会を作りパンフレットを活用しいつでも閲覧出来るようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には理事長若しくは事務長、職員が十分に説明を行い利用者やご家族の疑問にも理解が得られるまで答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に気付いたことや意見を聞ける関係作りに日常的に努めている。またその意見、要望は記録し管理者、職員で話し合い検討している	苦情の窓口は、重要事項説明書で家族へ周知しているが特に苦情は寄せられていない。家族が面会に訪れた時には、職員は利用者の近況について伝え、家族からの意見や要望聴取に努めている。「ひかり通信」ができた時には、家族に送付して事業所の取り組みや、利用者の様子を伝えている。その他、家族には利用者の日用品や、小口現金が少なくなった時に持ってきてもらい、その時にも家族とゆっくりと話すように心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は常に意見交換し日々の疑問点について話し合う機会を設け、必要があれば事務長や理事長に報告し運営に反映している	管理者は他の職員と同じシフト勤務をしている。そのため、ミーティングや送り時だけでなく、業務中いつでも職員から提案や意見を受けている。代表者も、グループホームのケアマネジャーとして、週に一度勤務しているので、直接に職員からの要望などを聴取している。職員からは、「コロナや地震などいろいろあったけど、そろそろ一度食事会でもしたいね」という意見があり、新年度は開催する予定でいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績や研修実績等の努力を年2回の職能評価にて評価し事務長が面談を実施し個々の賃金や職能等級に反映させている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員との面談を通じ一人一人の力量を把握している。社内での勉強会の他に外部からも講師を招きスキルアップを図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員は事業者連絡会や分科会で交流する機会を作り、ネットワーク作りや勉強会等を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の要望や不安を傾聴している。ホームでの生活に不安のないよう時間を掛け話をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学、申し込みから入居まで事前訪問等で現状を傾聴するようにしている。要望についても聞き取りを行い不安な事や要望などを聞きながら関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム見学、事前訪問等でご本人やご家族様からの要望や困っている事を聞き取り支援は何か必要かを検討している。管理栄養士や精神保健福祉士等に情報を提供して頂く事もある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームは共同生活の場であり家族の一員であるという事を念頭に好きな活動、出来る活動を一緒に行い出来る事、出来ない事を見極め困ったことはさりげなくフォローしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に来所頂けるよう努め、何かあった時知りたい事がある時には協力を仰ぐ体制が出来ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為一時は外出や外泊を控えて頂き、代わりにペランダ越しや玄関でのマスク着用での面会だったが年度末より緩和され、来訪や外泊、外出の支援を以前と変わらない状態で行えるようになってきている	コロナ対策のため、面会は感染対策をとって、キバーンであれば居室に入ってもらっている。それ以外の人は、玄関先での面会となっている。受診のために、家族と外出したり、墓参りや正月に家に帰る方もいるが、少数である。外出の機会をもっと増やしたいのだが、地震の被害が大きく、道路状況が悪く、まだ安心して外を歩ける状態ではない。そのため、近所への散歩も、今は控えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な性格、レベルの方々が生活している為孤立しやすい方にはスタッフが関り交流していけるように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族が来訪されたり引き継いだ事業所との連携が図れている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご本人の思いを確認しアセスメントの際にはご家族からも希望を聞き反映している	言葉によるコミュニケーションがとれる利用者が多いので、否定しないでよく聴くことを心がけている。アセスメントの情報や家族から聞いた家での暮らしぶり、生活歴等も参考にしながら利用者希望、意向の把握に努めている。ひとり一人のしぐさや行動にも注意して、例えば玄関に向かっていく人は帰宅願望が出てきたとか、ズボンを下ろしそうになる人はトイレに行きたがっているのだという判断をして、さりげなく支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご本人、ご家族から生活歴を確認し基本情報に記載している。支援を行って行く中で職員間で情報を共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日のスケジュールを基本情報に記載、出勤時個人記録を確認している。また申し送りノートも活用し情報を共有している。毎日健康チェックを行い体調の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月毎モニタリングを行っている。課題の検討が必要な時にはカンファレンスを行っている	アセスメントは担当職員と管理者が共同で行い、ケアマネジャーに伝え原案が策定される。サービス担当者会議は、家族も交えて開催して周知している。毎月サービス内容についてモニタリングして評価の後、翌月の目標を確認している。新規の人は3ヶ月後に計画を更新している。介護記録は、タブレットを使用して、記録作業の省力化を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等タブレットに記入し申し送り事項も記入している。課題検討が必要な時にはカンファレンスを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に細かく対応しケアプランに反映させ状況に応じて支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な地域行事のお誘いや参加が以前はあったが今年度はコロナ禍の為参加せず。主催者側の中止もあり感染予防を優先した		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の月1～2回の往診は実施出来ている。往診時には日々の生活の注意点を聞いたり助言を頂いたりしており良好な関係が築けている	現在18名中13名の方が協力医療機関の医師に診てもらっている。協力医療機関は往診してくれるので、直接に医師から指示をもらったり、医師に利用者の情報を伝えている。オンコール体制をとってくれるので、職員は心強く感じている。残りの利用者は、銘々の医療機関へ家族と受診している。受診時には家族に利用者情報をメモで渡し、受診後は家族から診察結果を聴いている。歯科医院も往診してくれるところがあり、そこに診てもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職からの気づきや情報は記録をまとめておき看護師や管理者が必要であれば主治医に相談し受診又は往診で対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には情報交換の為最新情報を渡している。退院時にはソーシャルワーカーと情報交換を行い適切に支援出来るよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合にはご家族とご本人の意思を尊重し事業所として出来る事を説明したうえで見取りの相談も受けている	グループホームとしては、寝たきりの全介助の状態でも介護していく考えである。看護師の配置で、医療連携加算を算定しているが、医療が常に必要になったり、食物が経口摂取できなくなってきた時には、今後のケアの方針について家族と話し合い、次の施設へと移行することもある。施設でできることを説明して、医師からの説明も受け、家族が同意した場合には看取りになっていくが、ここ6、7年は看取りの事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成している。またAEDも設置している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	入居者様の身体の変化は看護職に報告、相談する。行方不明時は緊急連絡網に従い連絡し全職員で対応、必要があれば警察にも連絡し連携を図るようにしている	「緊急時マニュアル ファイル」があり、「無断外出」、「救急対応」、「異変の観察ポイント」、「誤飲・窒息・のど詰まり・異食時・低血糖対応」などのマニュアルが作成されている。また、「感染症予防及び蔓延防止マニュアル」、「感染症予防及び蔓延防止マニュアル2 新型コロナウイルス」、「感染症BCP」が作成されている。そして、「事故報告書」や「ひやりはっと」というファイルがあり、事故に関する報告書が作成されている。令和5年度の事故報告書は1件、ひやりはっと報告は23件報告されている。報告書は、報告者及び管理者によって改善策が提示され、ミーティングなどで報告されたことが職員に伝えられる。職員は必ずアイパッドで内容を確認することで、事故防止に取り組んでいる。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関や非常勤の看護師には常に連絡をいれるようになっており夜間や緊急時に対応出来るようになってい	市内の病院が協力医療機関である。利用者13名の主治医でもあり、月3回往診に来て、利用者は月1回診察を受けている。この他、利用者の状態に変化があった時など、1年を通して24時間連絡が可能であり、ワクチン接種や予防接種、他科への紹介状などで連携している。利用者6名は、それぞれに主治医があり、家族と一緒に定期受診している。この他、市内に協力歯科があり、1年に1回検診に来てくれる。バックアップ施設は、市内の特別養護老人ホームで、情報交換を行っている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	近隣在住の職員や管理者が緊急時すぐ駆け付ける体制は整っている	2ユニットなので、2人夜勤体制である。夜勤者2人だけになるのは、19時から翌朝7時までである。この夜勤者2人体制の時間帯に利用者の状態に変化があった場合は、まずは夜勤者2人で対応を相談する。夜勤者だけでは判断できない場合は、管理者や看護師に連絡し、指示を受けている。令和5年度は夜間帯に救急車を2回呼んでいる。救急車を呼んだら管理者が応援に来て、家族が直接病院へ向かっている。家族がすぐに動けない場合は、事業所で対応する。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、火災時の基本的対応や確認を行っている。年2回消防職員に立ち会って頂き指導を受けている	令和5年9月と令和6年3月に、消防署立ち会いで総合訓練を実施している。令和6年3月は、夜間想定で訓練を行っている。訓練前には、消防署に提出する書類を職員へ回覧し、訓練内容を伝えている。訓練後には、「消防訓練を終えて」を作成し、消防署の講評なども記載し職員へ回覧し、職員の防災意識の向上に取り組んでいる。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害時は昼夜問わず入居者が避難できる方法を職員が身につけており地域との協力体制を築いている。避難経路も確認できている	「緊急時マニュアル ファイル」があり、「火災発生時マニュアル」、「津波・地震・水害等の災害時マニュアル」などが作成されている。また、「自然災害BCP」も作成され、備蓄リストも作成されている。飲料水、米、缶詰め、インスタント食品などの食料品、衛生用品、厨房関連品が備蓄リストに沿って備蓄品の整備に取り組み始めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーが守られるよう対応している。尊厳が守られるように接し方や言葉遣いを心掛けている	利用者への接し方や言葉遣いに配慮し、利用者が希望を伝えやすいように、話を傾聴するよう努めている。また、自己決定が困難な方には日ごろの様子を見て、その人のペースで暮らせるよう支援している。プライバシーの確保への取り組みとしては、個人的な話は居室で行うよう心がけている。また、排泄介助の場面では、必要な介助が終わったら、トイレの外に出て待つようにしている。そして、現在利用者は全員女性であり、男性職員が1名いる。そのため、同性介助を望む方には、可能な限り同性介助となるよう配慮している。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伝えやすい様に工夫し希望を傾聴している。実施できない場合でも選択肢を提案し自己決定できるよう支援している		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話できる時間を大切に一人ひとりの体調の希望を聞きながら、その人らしく生活できるよう支援している		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服をご自身で選んで頂けるようにしている。散髪はご本人の希望を聞き髪形を楽しんで頂いている		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一番の楽しみと考えて美味しく食べやすい食事が出来るよう工夫し旬の物、盛り付け、色合いに気を使い食事作りには力を入れている。後片付けや茶碗拭きも役割として参加頂いている	食材は、職員が近くのスーパーへ買い物に行っている。献立は、利用者に食べたいものを聞いて、職員が交代で1週間分の献立を作る。食事は、利用者にも下ごしらえなどのできることを手伝ってもらい、柔らかく目に作るようにしている。そして、その人の状態に合わせて、食材の大きさや食事の量にも配慮している。食事中は、テレビを消して食事に集中するようにしている。ただ、職員も一緒に、同じものを食べているので、味やメニューなどについて話しながら、また食事が進んでいない方へ声かけしながら食事をしている。毎月のように行事食があり、1月はおせち、2月はとろろの太巻き、3月はちらし寿司、4月は花見へ行って花見弁当、5月は鯉のぼり稲荷寿司、7月は七夕そうめん、8月は夏祭り焼肉、9月は敬老会のごちそう、10月は栗ご飯、11月はお弁当のテイクアウト、12月はクリスマスオードブルなどで食事を楽しんでいる。また、ホットケーキをデコレーションしたり、おはぎ、ゼリー、クリスマスケーキ作りで食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握を職員間で共有し記録、ミーティングで報告している。不足分は手作りおやつやフルーツで好んで接種出来るように工夫している		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。食前には嚥下体操、食後にはうがいや歯磨きの声掛け、就寝前には義歯洗浄及び殺菌を行い清潔保持に努めている		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して定期的な声掛けや支援を行っている。夜間は睡眠を妨げない程度に声掛けや誘導を実施している	利用者全員を対象に、排泄チェックを行っている。ただ、自分でトイレに行く方に関しては、分かる範囲でチェックしている。排泄チェック表は、自分でトイレに行く方については、その方の健康状態の変化に気づくデータとして活用している。また、声かけや介助の必要な方に関しては、タイミング良い声かけで、トイレで排泄できるよう支援している。そして、排泄に関しては、できるだけ自分で衣類の上げ下げができるよう、家族には少し大きめのサイズを用意してくれるようお願いしている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な水分摂取量を確保出来るよう記録を取り個々に応じて工夫している。又排便の状況に応じて医師と相談し下剤等も使用している		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日にはご本人が選択した時間やタイミングに合わせて気持ちよく入浴出来るよう支援している。又希望する温度での提供や季節の変わり湯(菖蒲、柚子等)で楽しめるよう工夫している	2つのユニットとも月・火・木・金が風呂日となっている。入浴できない時には、清拭などを行い無理強いはない。現在は、入浴を拒否する方はいない。入浴は、本人の好む湯加減で、可能な限り満足するまでお湯に浸かってもらっている。ただ、健康上の配慮が必要なため、皆さん10分程度で上がっている。ただ一人なかなか上がらない方がいて、15分程度お湯に浸かっている方もいる。また、菖蒲湯、柚子湯、のとヒバチップ、入浴剤を使用し、入浴を楽しんでいる。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や希望に応じて居室でゆっくり休んだりソファで一時的に休息して頂いている。適切に温度管理も行い支援している		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報にて服薬状況を確認し、服用時には相互確認を行っている。病状の変化があれば管理者や看護師に報告し主治医への相談、指示を仰いでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の体調に合わせてタオルや新聞量、食器拭き、洗濯たたみ等を提供させて頂いている		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍だったので人混みを避けて花見など行っている	地震の前は、ホーム周辺を散歩していた。ドライブにも出かけていた。能登島大橋を見に出かけたり、花見に出かけたり、家族と出かけたりしていた。1月1日の午前中は、近くの神社に初詣にも行っている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いを預かり買い物の際に使用できるようにしている。お小遣帳を記入しレシートを面会時に確認頂いている		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、ご本人の希望があれば取り次ぐ支援をしており、コロナ禍で実施回数は増えている		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の身体状況に合わせて安全面を確保し快適に過ごせる空間づくりに努めている。壁には季節ごとに飾りを施し季節感を感じて頂いている	日中はほとんどの方がリビングで過ごしている。おやつ後は、皆で歌を歌ったり、ゲームをしたり、体操したりしている。このようにリビングは皆が集まる場所なので、掃除をし清潔を保持している。A棟では利用者と一緒に、B棟では利用者が居室に戻った後に掃除を行っている。また、換気、室温・湿度の調節、消臭剤やお香などで匂いへも配慮し、居心地良く過ごせるよう配慮している。また、リビングにはソファを置き、のんびりとくつろげるようにしている。そして、新しい利用者が来た時には、利用者間の相性を考え、座席の配置にも配慮している。リビングなどの壁には、月ごとのタペストリーや季節ごとに作品を作り飾っている。春は桜、夏は海と魚、てるてる坊主、秋は月見、紅葉、ハロウィン、冬はクリスマスなど季節が感じられるよう取り組んでいる。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が安心して過ごせるように椅子や机の配置を変えたりして工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や手芸をタンスの上に飾ったり使い慣れた物を使用して頂き居心地よく過ごせる工夫をしている	居室に取り付けられているものは、テレビ、タンス、押入、エアコンなどが取り付けられている。これ以外のものは、持ち込んでもらっている。そのため寝具は持参してもらっている。その他時計、茶碗、箸、湯呑などを持ち込んだり、家族の写真や入居後に作った作品などが飾られている。居室は、本人が好むように使っている。ベッド周りに衣類やタオルなどをたくさん掛けている方がいる。見た目に雑然としており、時々職員の方で整理し、清潔を保ち、居心地良く生活できるよう支援している。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが出来る事を「役割」として行って頂いている		